

# 来週の「売り物記事」はこれ



2019年3月1日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 原発・震災 風化させない

福島のフリーアナ、大和田新さんの闘い

3日（日）



元ラジオ福島アナウンサーで現在フリーの大和田新（あらた）さん（63）は、今も福島第1原発や周辺地域を頻りに訪れ、取材を続けています。ときには大学生を引率して被災地の現状を伝えています。

東日本大震災と原発事故から8年。福島では現在も約4万2000人が県内外に避難しています。被災の記憶を風化させまいと、奮闘を続けるアナウンサーの

姿を見つめました。

筆者は東京地方部地域報道グループの近藤浩之記者です。



## 減少する「街の魚屋さん」 浦安魚市場が3月末で閉鎖

夕刊特集ワイド 4日（月）

かつて漁師町として知られ、作家、山本周五郎の小説「青べか物語」の舞台にもなった千葉県浦安市。その面影を残すとされる「浦安魚市場」が今月末、約65年の歴史に幕を下ろします。



売り上げ低迷に後継者難。海外では和食がブームですが、なぜ国内では鮮魚の消費が不振なのでしょうか？

市場の人たちの話に耳を傾けながら、魚食文化に思いを巡らせました。

## どうぶつ イノシシ出没 危険性を知る

くらしナビ面 5日（火）

今年亥年。十二支に数えられ、古くから人間との関わりが深いイノシシですが、近年では野生の個体が人間の生活圏に出没し、農業被害や交通事故などを引き起こすケースが目立ちます。

国内に生息する野生のイノシシは、本州や四国、九州に分布するニホンイノシシと、南西諸島に分布するリュウキュウイノシシの2亜種に分類されます。

どんな生き物なのでしょう。



## 「stand by you!」震災8年ワイド版

医療・福祉面 6日（水）



医療、福祉、子育ての現場などで弱者に寄り添う若者を紹介する好評のコーナー「stand by you! そばにいるよ」。今回はワイド版として、間もなく8年になる東日本大震災の被災3県で「今、何ができるか」を自問しながら前を向いて歩む3人を取り上げます。

母と姉が不明の岩手の臨床検査技師、聴覚障害がある宮城のパン職人＝写真、福島の子ども支援のNPO法人スタッフに、それぞれの思いを聞きました。

## 有力ランナー、それぞれの戦い

スポーツ面 6日(水)から全3回

2020年東京五輪の代表選考会「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」の出場権と、秋の世界選手権ドーハ大会の代表選考とを懸けた「びわ湖毎日マラソン」が、3月10日に開催されます。

大会直前企画「それぞれの戦い」では、国内招待選手のうち有力選手3人——「最強の公務員ランナー」と呼ばれる川内優輝(埼玉県庁)、1万27分台のスピードランナーである大石港与(トヨタ自動車)、昨年の東京マラソンで2時間8分台を出して日本人5位(全体9位)に入りMGC出場権を得た山本憲二(マツダ)の、意気込みや目標を紹介します。



## 親ありて

### お笑い芸人・矢部太郎さんの父、やべみつのりさん

くらしナビ面 6日(水)、7日(木)

エッセー漫画「大家さんと僕」(新潮社)が76万部を超すベストセラーになったお笑い芸人の矢部太郎さん(41)。父は絵本・紙芝居作家、やべみつのりさん(76)です。

「太郎」と名付けたのは、「男の子はいずれ父に反抗してくる。気にいらなければ光太郎でも朔太郎でも、好きな文字を足せる」からだとか。

エンターテイナー気質豊かな父子の物語をお届けします。

## 恐竜のイラストはどうやって描かれる？

科学面 7日(木)



子どもたちにも大人気の恐竜ですが、図鑑などに載っている臨場感たっぷりのイラスト(復元図)はどのようにして描かれるのでしょうか。

誰も実物を見たことはありませんが、発掘されたわずかな化石を手がかりに、恐竜の専門家と絵の専門家が細かな部分まで何度もやりとりを繰り返して描いていきます。

2006年に化石が見つかり、国内最大級の草食恐竜の新種として話題になった丹波竜のケースを例に、科学と芸術が融合されていく過程を紹介します。

## 企業型保育所の実情

くらしナビ面 9日(土)

保育の質や事業の継続性を確保するために制度の見直しが急がれる「企業主導型保育所」。政府は安易な参入を防ぐため、専門業者による新設の条件を「実績5年以上」とし、職員に占める保育士の比率を引き上げるなど、厳格化する方向で議論を進めています。

保育現場の不安と混乱は解消されるのでしょうか。開園1年で閉園騒動に揺れた大阪市の事例を報告します。

